

## インドネシアリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催 北海道大学一般入試の志願状況

お知らせ

・過半数代表候補者の決定





新渡戸フェローゼミ全体発表会



北海道大学・東北大学・名古屋大学の若手研究者による合宿

## ■ 全学ニュース

- 1 インドネシアリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催
- 2 北海道大学一般入試の志願状況
- 3 AO入試合格者の発表
- 3 国際総合入試合格者の発表
- 4 北大フロンティア基金
- 5 ロシア・太平洋国立大学学長等が来学
- 6 ソウル大学校新聞会が本学を訪問
- 7 新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催
- 8 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 講義型科学体験イベント「しっかりサイエンス！～大学院生のセンパイとも語ろう～」全3回を開催
- 9 北海道大学・東北大学・名古屋大学の若手研究者による合宿を開催
- 10 北海道大学・東北大学・名古屋大学合同シンポジウム～連携型博士研究人材総合育成システムシンポジウム2017～を開催

## ■ 部局ニュース

- 11 薬学研究院が「創薬に向けた構造免疫学と構造ウイルス学の国際シンポジウム：オックスフォード大学との国際連携」を開催
- 12 文部科学省高等教育局専門教育課企画係長らが工学研究院を訪問
- 13 工学研究院で「大学の世界展開力強化事業（インド）」のキックオフイベントを開催

- 14 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催
- 14 地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催
- 15 経済学部で特別講演会を開催
- 16 Ambitiousリーダー育成プログラムが理系博士課程留学生を対象としたキャリアセミナーを開催

## ■ お知らせ

- 17 過半数代表候補者の決定

## ■ 諸会議の開催状況 18

## ■ 学内規程 18

## ■ 表敬訪問 19

## ■ 人事 19

- 19 新任教授紹介

## ■ 訃報

- 20 名誉教授 大賀 皓 氏



工学研究院  
「大学の世界展開力強化事業（インド）」のキックオフイベント



農学院・農学研究院・農学部  
留学生新年会



経済学部  
特別講演会



理系博士課程留学生を対象としたキャリアセミナー

## ■全学ニュース

# インドネシアリエゾンオフィス開所式及び大学交流デーを開催



開所式参加者集合写真

本学は平成29年6月にインドネシアのボゴール農業大学内にインドネシアリエゾンオフィスを開設し、本学の広報や研究交流の拠点として運用を行ってきましたが、1月23日（火）にその開所式を、24日（水）に北海道大学交流デーをボゴール農業大学で開催しました。本学からは、横田 篤農学研究院長、島竜一郎国際部長他、19名の教職員が参加しました。

23日（火）午前中から始まった開所式では、まず島国際部長と横田農学研究院長からの挨拶がありました。続いて、在インドネシア日本国大使館の中村 亮公使から祝辞をいただいた後、

ボゴール農業大学のアリフ サトリア学長から祝辞をいただきました。その後、インドネシア伝統の踊りが披露され、リエゾンオフィスの事務室前に移動し、テープカットのセレモニーが行われました。午後には、本学とボゴール農業大学とのダブルディグリープログラムの署名式が行われ、その後、本学とインドネシアの交流、本学とインドネシアの連携に関する機会と挑戦及び本学とボゴール農業大学の国際活動の3つのテーマでパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションは、ボゴール農業大学を中心に学生や教職員250名以上が参加す

る盛況な会となり、学生から多くの質問が寄せられるなど活発に交流が行われました。

24日（水）には、北海道大学交流デーが開催されました。大学交流デーではまず、本学アンバサダー・パートナー制度によりアンバサダーに就任いただいているハニー C. ウィジャヤボゴール農業大学教授の挨拶があり、その後、農学と食、環境、獣医学、工学の4つのテーマに分かれて分科会が行われました。分科会には本学とボゴール農業大学の教職員を中心に本学の同窓生やパラカラヤ大学、ガジヤマダ大学、バンドン工科大学等からも参加があり、それぞれの研究紹介や共同研究の可能性があるテーマを中心に発表が行われました。終了後にはすべての分科会の参加者が集まり、それぞれの会の内容を報告しました。

今回の開所式及び大学交流デーの成果をもとに、インドネシアリエゾンオフィスを活用した、本学とインドネシアのさらなる交流の活性化が期待されます。

(国際部国際連携課、農学院・農学研究院・農学部)



挨拶をする横田農学研究院長



パネルディスカッションで質問をする参加者



大学交流デーで挨拶するウィジャヤボゴール農業大学教授

# 北海道大学一般入試の志願状況

平成30年度の本学一般入試の志願者は、前期日程5,833名、後期日程4,016名、合計9,849名となり、昨年度と比較すると213名増加し、倍率は4.1倍となりました。

入学試験日は、前期日程が2月25日(日)・26日(月)、後期日程が3月12日(月)となっています。

各学部・学科等の志願者数は、次のとおりです。

(学務部入試課)

平成30年度北海道大学一般入試志願者数

日程	学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	第一段階選抜 予告倍率	前年度 志願者数	前年度倍率		
前期日程	総合入試	文系	95	398	4.2	4.0	380	3.8		
		理系	数学重点選抜群	129	529	4.1	4.0	418	3.2	
			物理重点選抜群	233	663	2.8	4.0	614	2.6	
			化学重点選抜群	233	704	3.0	4.0	580	2.5	
			生物重点選抜群	175	469	2.7	4.0	494	2.8	
			総合科学選抜群	247	615	2.5	4.0	702	2.8	
	計	1,017	2,980	2.9		2,808	2.7			
	学部別入試	文学部	118	321	2.7	4.0	388	3.3		
		教育学部	20	49	2.5	4.0	68	3.4		
		法学部	140	352	2.5	4.0	319	2.3		
		経済学部	140	390	2.8	4.0	341	2.4		
		医学部	医学科	97	341	3.5	3.5	338	3.5	
			保健学科	看護学専攻	60	174	2.9	5.0	136	2.3
				放射線技術科学専攻	28	100	3.6	5.0	96	3.4
				検査技術科学専攻	28	98	3.5	5.0	87	3.1
				理学療法学専攻	13	33	2.5	5.0	35	2.7
				作業療法学専攻	13	52	4.0	5.0	47	3.6
				小計	142	457	3.2		401	2.8
計		239	798	3.3		739	3.5			
歯学部	30	117	3.9	6.0	102	3.4				
獣医学部	20	104	5.2	6.0	91	4.6				
水産学部	105	324	3.1	4.0	304	2.9				
合計		1,924	5,833	3.0		5,540	2.9			
後期日程	学部別入試	文学部	37	305	8.2	6.0	373	10.1		
		教育学部	10	105	10.5	10.0	103	10.3		
		法学部	40	334	8.4	6.0	408	10.2		
		経済学部	20	157	7.9	10.0	208	10.4		
		理学部	数学科	13	115	8.8	6.0	79	6.1	
			物理学科	5	103	20.6	6.0	88	17.6	
			化学科	23	238	10.3	6.0	132	5.7	
			生物科学科 生物学専修分野	10	84	8.4	6.0	76	7.6	
			生物科学科 高分子機能学専修分野	5	50	10.0	6.0	44	8.8	
			地球惑星科学科	5	80	16.0	6.0	76	15.2	
	計	61	670	11.0		495	8.1			
	医学部	保健学科	放射線技術科学専攻	7	63	9.0	6.0	66	9.4	
		検査技術科学専攻	7	61	8.7	6.0	63	9.0		
		理学療法学専攻	4	30	7.5	6.0	37	9.3		
	計	18	154	8.6		166	9.2			
	歯学部	8	109	13.6	6.0	104	13.0			
	薬学部	24	239	10.0	6.0	212	8.8			
	工学部	応用理工系学科	34	224	6.6		274	8.1		
		情報エレクトロニクス学科	38	309	8.1		277	7.3		
		機械知能工学科	30	270	9.0		256	8.5		
		環境社会工学科	49	341	7.0		352	7.2		
		計	151	1,144	7.6		1,159	7.7		
	農学部	53	369	7.0	6.0	421	7.9			
	獣医学部	15	93	6.2	6.0	109	7.3			
水産学部	50	337	6.7	6.0	338	6.8				
合計		487	4,016	8.2		4,096	8.4			
総計		2,411	9,849	4.1		9,636	4.0			

## AO入試合格者の発表

平成30年度AO入試のうち、大学入試センター試験を課す医学部及び工学部の合格者発表が2月6日（火）に行われ、12名が合格しました。

昨年12月12日（火）に合格者発表が行われた理学部、歯学部及び水産学部と合わせ、合格者数は29名となりました。

(学務部入試課)

平成30年度AO入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数	
理学部	物理学科	5	3 (1)	0.6	0	
	地球惑星科学科	5	20 (7)	4.0	4 (2)	
医学部	医学科	5	5 (1)	1.0	0	
	保健 学科	看護学専攻	7	20 (11)	2.9	6 (5)
		作業療法学専攻	4	4 (2)	1.0	4 (2)
歯学部		5	13 (3)	2.6	5 (1)	
工学部	応用理工系学科 (応用マテリアル工学コース)	4	4 (2)	1.0	2 (2)	
	環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4	1	0.3	0	
水産学部		20	35 (3)	1.8	8 (1)	
計		59	105 (30)	1.8	29 (13)	

※ ( ) 内の数字は、道内高校出身者で内数

## 国際総合入試合格者の発表

平成30年度国際総合入試のうち、条件付合格者（国際バカロレア資格の取得を条件として合格していた者）の最終合格発表が2月6日（火）に行われ、4名が合格しました。

昨年12月12日（火）に発表された合格者と合わせ、最終合格者は5名となりました。

(学務部入試課)

平成30年度国際総合入試合格者数等一覧

学部・学科等		募集人員	志願者数	倍率	合格者数 (条件付合格者含む)	最終合格者数
総合入試	文系	5	5 (4)	1.0	3 [ 2 ]	3 (2)
	理系	10	7 (7)	0.7	2 [ 2 ]	2 (2)
計		15	12 (11)	0.8	5 [ 4 ]	5 (4)

※ ( ) 内の数字は、女子で内数

※ [ ] 内の数字は、条件付合格者数で内数

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

## 北大フロンティア基金情報

基金累計額（1月31日現在）

21,723件 4,335,939,469円

## 1月のご寄附状況

法人等6社、個人75名の方々から21,882,430円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

アズビル株式会社、医学部25期卒業生一同、オリンパス株式会社、SAGE Publications Asia Pacific Pte Ltd

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	天野 淳子	入澤 秀次	上原真由美	大芝 哲路	大塚 榮子	小内 透
小原 大和	埴山 雅秀	笠原 正典	金川 眞行	加納 元雄	鎌田 覺	河本 充司	工藤 與亮
小菅 高之	斉藤 久	齋藤 弘明	坂本 大介	桜井 謙介	佐々木武司	三升畑元基	志賀 哲
篠原 信雄	神保 重孝	関崎 勉	瀬名波栄潤	高野 芳裕	田中 真樹	土家 琢磨	寺澤 睦
照屋 均	豊田 威信	成瀬 隆	成瀬 澄子	三嶋 涉	望月 直樹	山下 憲昭	山羽 好幸
吉田 広志							

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

アズビル株式会社、医学部25期卒業生一同、オリンパス株式会社

#### （個人）

鎌田 覺、工藤 與亮、佐々木武司、関崎 勉、田中 真樹

### 感謝状の贈呈

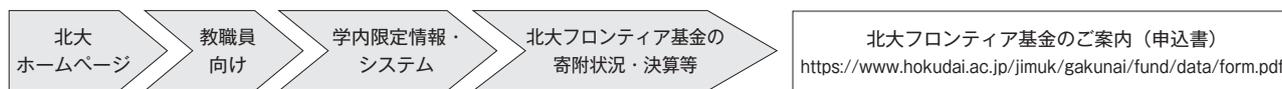


医療法人社団心優会 中江病院 様  
（平成30年1月9日）

## ご寄附のお申し込み方法

### ①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。



### ②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

### ③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各局事務担当及び基金事務室にご用意していますので、ご利用ください。

### ④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<https://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

## ロシア・太平洋国立大学学長等が来学

1月19日（金）、ロシア・太平洋国立大学のセルゲイ・イワンチェンコ学長等が本学を訪れ、名和豊春総長と懇談しました。

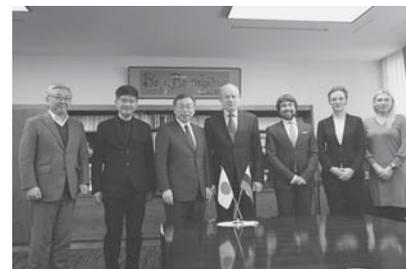
イワンチェンコ学長等の来日は、本年5月に開催予定の日露大学協会総会の場において発足する「日露人材交流委員会」の準備会開催に併せて実現したものです。同委員会は、平成29年度に本学と新潟大学が共同採択された、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ロシア、インド等との大学間交流形成支援～（タイプB：プラットフォーム構築プログラム、ロシア）」の枠組みにおいて計画されている、ロシアとのオールジャパンでの交流のフ

レームを形成していくことを目的とした「プラットフォーム事業」の一環として設置されるものです。今回、ロシア側との協議に先立ち日本側の関係大学間で連絡調整を図る目的で開催された同委員会準備会には、イワンチェンコ学長等もオブザーバとして参加しました。イワンチェンコ学長は、ロシア学長協会（Russian Rectors' Union）の副会長を務め、また、太平洋国立大学は今回のプラットフォーム事業において重要な役割が期待されています。

名和総長との懇談の場において、イワンチェンコ学長からは、「かつて、日本との交流は東京・京都・大阪が中心だったが、今は北海道との交流が盛

んになってきている。さらなる交流プログラムの構築も含めて今後とも協力を進めていきたい」旨発言がありました。

（国際部国際交流課）



記念撮影

## ソウル大学校新聞会が本学を訪問



集合写真

2月2日（金）に、協定校であるソウル大学校新聞会一同が本学を訪問しました。韓国では多くの大学に大学新聞の文化が残っていますが、中でもソウル大学校新聞会は1952年2月4日に創設されて以来、同大学校学長を編集長として、各大学が官報作成に移行しても残り続け、社会への批判精神と会員の連帯意識を持ち活動しています。記事一つが学校環境を変え、学生や社会を動かし、新たな談論形成を主導するという思いのもと、学期中の毎週月曜に18,000部を発行しています。記者、編集者は文理問わず様々な学部の学生で成り立ち、2ヶ月の訓練期間を設け登用され、国内外への研修も行わ

れています。

今回の訪問は同新聞会の国外研修の一環であり、現在、本学に同様の新聞はないものの、協定校の類似媒体について学びたいとの依頼を受け実現しました。高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）で、Facebookページ「いいね！Hokudai」の活動に携わっている村井 貴特任助教、朴 炫貞特任助教の協力を得て、教員4名、学生記者・編集員28名、事務職員2名を迎え入れました。

村井特任助教からは、「Brief Introduction about the *Like.Hokudai*

Project（いいね！Hokudaiの取り組みについて）」と題して同Facebookページの運用、講義との連動、学生や卒業生からの反応について紹介がありました。ソウル大学校からは、師範大学教育学科教授／科学学習創造的才能開発センター長であり、ソウル大学校新聞会のJohgho SHIN主幹から開催に際してのお礼があった後、自然科学大学物理天文学科所属でソウル大学校新聞会のJong-Hak WOO副主幹から同新聞会の活動と体制について説明がありました。大学の公的広報媒体とは違う立ち位置で行っている共通性があり、実働体制や活動予算、研修、頒布、反響が大きい層等について質疑応答が行われました。同新聞はキャンパス内で問題提起し学内の相互作用を生むものと捉えられており、本学で同様の組織が見受けられないことについて残念そうな学生記者もいました。

今回の訪問で、ジョイントシンポジウムにおける研究教育協力以外にも、両校の協働可能性が広がっていることが示されました。

（国際部国際連携課）



意見交換会の様子



## 新渡戸フェローゼミ全体発表会を開催



表彰式後の記念撮影

新渡戸カレッジでは、社会で活躍する北大OBの新渡戸カレッジフェローが学生を指導し、現実社会の課題に取り組む新渡戸フェローゼミを2016年度より開講しています。このフェローゼミ履修学生による成果発表の場として「新渡戸フェローゼミ全体発表会」を12月10日（日）、高等教育推進機構大講堂において開催しました。

フェローゼミは新渡戸カレッジ1・2年次生の必修科目で、最大24名の演

習形式の授業です。ゼミを担当するフェローの他、支援教員、テーマに関連する関係者が協力し、新渡戸カレッジ2年次生以上の上級生や新渡戸スクール生が授業を支援しています。

このフェローゼミの目的は実地での学びを通して、社会の現実を学問とのつながりの中で捉えると同時に、リーダーシップ力を身につけることにあります。今年度は、以下の9つのテーマのもとでゼミが実施されました。授業

の最後には、ゼミ履修生及びご協力いただいた現地視察関係者や外部講師の方など多くの聴衆の前で、9ゼミの代表チームが一堂に会し、コンペ形式で全体発表会を行いました。ゼミ開始から全体発表会までの約2ヶ月間、履修生は授業以外にも集まって議論を重ねてきたこともあり、創意工夫が凝らされた発表が多く、活発な質疑応答が交わされました。今年度は上位3チームのほかに、新たに学生審査員による学生大賞も設置され、受賞チームは5月12日（土）の新渡戸Day-Springで新入校生を前に再び発表を行うことになっています。

最後に、審査員長の杉江和男フェローから、各チームへの講評があり、今年の全体発表会が終了しました。

（学務部教育推進課）

### 2017年度新渡戸フェローゼミテーマ一覧

1. グローバリゼーションの終焉の中での我が国の安全保障（石川裕一フェローゼミ）
2. 酪農・乳業事業へのアプローチ提案と地域活性化（伊藤 慎フェローゼミ）
3. 文化による地域振興・観光促進（大西裕子フェローゼミ）
4. 北海道の製造業の将来を考えるートヨタ北海道（株）から学ぶ（小林浩治フェローゼミ）
5. サケと地球温暖化（重田親司フェローゼミ）
6. 札幌都心部の課題と解決ーレンタルサイクルによる解決策を事例としてー（柴田哲史フェローゼミ）
7. JETプログラム参加者・在道外国公館を活用した地域の国際化戦略立案（多田幸雄フェローゼミ）
8. 日本の刑務所の歴史と現状、課題は何か（玉城英彦フェローゼミ）
9. 札幌市におけるインバウンド客向け観光ボランティア活動の現状と展望（長岡宗男フェローゼミ）



プレゼンの様子



質疑応答の様子

## 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 講義型科学体験イベント 「しっかりサイエンス!~大学院生のセンパイとも語ろう~」全3回を開催

人材育成本部女性研究者支援室では、昨年度に引き続き採択されている「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」にて、「Girls be Ambitious! ~科学を楽しむ, 理系キャリアを知る~」と題した一連の女子中高生向け企画を実施しています。当室は本事業を通じて女子中高生に理系に対する具体的なイメージを持ってもらい、理系に興味のある女子中高生が様々なバイアスに影響されずに理系を目指すよう、体験を通じた情報提供を行っています。この中で、講義型の科学体験イベントとして「しっかりサイエンス!~大学院生のセンパイとも語ろう~」全3回を開催しました。本企画はキャリアや研究についての講義と体験実習、学生との座談会をセットとし、理系に興味のある女子中高生が理系進路についてより明確な意識を持つことを目的としています。

第1回(10月21日(土)開催)は「画像処理で広がる世界~わくわくする未来に繋がる最先端研究~」と題し、情報科学研究科の長谷山美紀教授がキャリアや画像処理研究に関する講

義や、PC組み立て実習を行いました。実習後には中高生と学生による座談会の他に、長谷山教授による保護者のみを対象とした「未来の職業」についての講義が行われました。この講義は参加者から非常に好評で、アンケート結果からは、保護者が自分たちの子どもを理系に進ませるべきと強く感じたことがうかがえました。参加者は女子中高生28名、保護者16名、計44名でした。

第2回(11月23日(木・祝)開催)は「良いお医者さんって?~一生勉強, でもコミュニケーションも大事~」と題し、北海道大学病院内科I/男女共同参画推進室の清水薫子特任助教が自らのキャリアや医療に関する講義を行いました。また、患者さんへがん告知をするロールプレイ実習を行い、中高生はやや緊張しながらも「良い医者」とはどのようなものかを考えて実習を行っていました。参加者は女子中高生48名、保護者32名、計80名でした。

第3回(1月21日(日)開催)は「バイオロギングで海鳥の謎に迫る!」と

題し、水産科学研究院の庄司晶子特別研究員が講義を行いました。また、参加者全員が廊下でケンケンリレーをしながら野鳥の採餌戦略を考える実習や、GPSロガーを用いたフィールドワーク体験などを行いました。参加者は女子中高生11名、保護者5名、計16名でした。

3回とも実習後の座談会では受験勉強や大学生活、就職等について活発に話し合われていました。アンケートには「普段の学校生活では出来ない経験ができました」「身近で使われている技術や最先端の研究について知ることができて楽しかったし、勉強になったと感じた」「たくさんの人と話せたことが、本当に良かった。人と人のコミュニケーションが大切だということがよく分かった」など、非常に肯定的な回答がほとんどであり、高い効果が認められました。今後も継続的に実施したいと思います。

(人材育成本部)



組み立てたPCで画像認識をテストする様子(第1回)



良い医者テーマにディスカッション(第2回)



GPSロガーを設定している様子(第3回)

## 北海道大学・東北大学・名古屋大学の若手研究者による合宿を開催

11月28日（火）・29日（水）に、本学及び東北大学、名古屋大学の3大学の若手研究者26名が一堂に会し、1泊2日の合宿が開催されました。

本合宿は、本学が平成26年度から2大学と連携して取り組んでいる、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」の一環で開催されているものです。今年で2回目となる本合宿は、「異分野間連携の模索」がテーマで、理系から文系の、様々な研究領域からなるコンソーシアム育成対象助教が、2日間に及ぶディスカッションを繰り返しました。

初日は、会場となった札幌市内のホテル会場に、コンソーシアム育成対象助教が国内はもとより国外からも集結し、3大学の合宿リーダー（本学：玉井美保助教、東北大学：當真賢二助教、名古屋大学：蜂谷卓士助教）が中心となって、話し合いが進められました。会議では、以前から連携を進めて

きた東北大学の下西 隆助教が、異なる分野の研究者と融合研究を進めていく上で重要な事柄について、研究成果とともに発表されました。その後、いくつかのグループを作成してディスカッションを行い、異分野研究の可能性について話し合い、有益かつ貴重なひと時となりました。

2日目は学术交流会館に会場を移し、本学で分野融合研究を推進している2名の教授が講演しました。理学研究院の松島俊也教授（生物科学部門行動神経生物学分野）、薬学研究院の前仲勝実教授（創薬科学部門生体機能科学分野）は、分野融合研究を積極的に推進している研究者であり、3大学の若手研究者の希望で、今回の講演が実現しました。2名の先生から得られた助言等を含めて、分野融合研究を実践するためには、研究活動の紹介とともに、異分野融合の研究を推進するためには、興味があれば大御所であろうと

臆せずコンタクトをとることや、異分野連携をあまり意識しすぎず純粋に研究する等の成果を確認しました。また、今回の26名の参加者による貴重な合宿成果として、わずか1日半の討論から8つの異分野連携のテーマが生まれたことも、翌日に開催されたシンポジウムにおいて発表されました。来年度の合宿は仙台で開催されることを確認し、本合宿は成功裏に終了しました。

（人材育成本部）



松島教授による講演



前仲教授による講演



合宿での会議の様子



3大学コンソーシアム育成対象助教による記念撮影

# 北海道大学・東北大学・名古屋大学合同シンポジウム ～連携型博士研究人材総合育成システムシンポジウム2017～を開催



記念写真

本学は平成26年度から、東北大学、名古屋大学と連携し、文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に取り組んでいます。11月30日（木）に「連携型博士研究人材総合育成システムシンポジウム2017」を学術交流会館において開催し、1年間の活動成果を報告しました。

本事業は、3大学が相互の研究人材育成資源を結集し、多様な分野を対象にした次世代研究人材育成システムの構築を図ることを目的としており、若手研究者、DC・PDを対象とした2つの人材育成支援プログラム：次世代研究者育成プログラム（助教事業）、イノベーション創出人材連携育成プロ

ラム（イノベ事業）を推進しています。今年度のシンポジウムでは、事業が4年目を迎えたことをふまえた事業全体及びプログラムからの報告等がありました。

当日は2部構成で行われ、第1部のプログラム報告では、本学の笠原正典理事・副学長の挨拶のあと、文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室の伊藤 賢室長より、人材育成事業の現状と今後の展望について講演をいただきました。続いて笠原理事・副学長から主幹校としての事業全体報告が行われたあと、助教事業の和田雅子コーディネーターからの活動報告、若手研究者からは、本事業の支

援を得て行っている研究活動について発表がありました。イノベ事業では、吉原拓也コーディネーターによる活動報告のあと、3大学に加え、本年度から参画した大阪大学の担当教員から、それぞれ活動報告が行われました。

第2部のパラレルセッションでは、事業連携をしているJAXAの元プログラママネージャー長谷川義幸氏による若手研究者に向けた講演や若手研究者による留学報告、事前に行われた助教合宿「異分野間連携の模索」についての発表もあり、3大学の助教間で8テーマもの異分野研究のマッチング成果があったこと等が、助教事業成果として報告されました。イノベ事業では、DC・PDによる企業インターン報告が行われ、学生とインターンシップ先の企業担当者が参加し、参加した育成プログラムから得た気づき、また企業からの意見等が発表されました。

シンポジウムは、次年度の開催校である東北大学の伊藤貞嘉理事が閉会の挨拶を行い、約130名もの参加者で成功裡に終了しました。

（人材育成本部）



笠原理事・副学長による事業報告



長谷川JAXA元プログラムマネージャーの特別講演



樋口直樹特任教授の司会によるパネルディスカッションの様子

## ■ 部局ニュース

# 薬学研究院が「創薬に向けた構造免疫学と構造ウイルス学の国際シンポジウム：オックスフォード大学との国際連携」を開催



講演者との集合写真

1月11日（木）に医学部のフラテホールにて、概算特別経費“バイオサーフィス国際連携研究教育拠点の構築”のキックオフシンポジウムとして、第24回ファーマサイエンスフォーラム・北大創薬科学研究教育センター合同シンポジウムを開催しました。

シンポジウムには、構造免疫学分野及び構造ウイルス学の分野において顕著な業績のある、オックスフォード大学の教授4名をお招きしました。第一線で活躍中の研究者から直接、最新の知見をお話しいただき、創薬へ向けた戦略を知る貴重な機会となりました。また、日本医療研究開発機構の善光龍哉氏から創薬等先端技術支援基盤プラットフォーム（BINDS）を紹介していただきました。さらに、本

学教員と大学院生が日本学術振興会“頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム”と概算特別経費“難治性疾患に立ち向かうバイオ融合医薬品開発をモデルとする人材育成プラットフォーム構築”の成果を発表しました。学生を含む多くの参加者から様々な質問が寄せられ、講演者との間で活発な質疑応答がなされま



西井準治理事・副学長による挨拶

した。

今後、このシンポジウムで得た知見が詳細なウイルス侵入過程の解明やワクチン開発へとつながり、本学の創薬研究教育拠点へと発展することが期待されます。

シンポジウム後には、オックスフォード大学一行が名和豊春総長を表敬訪問し、本学とオックスフォード大学との今後の連携について懇談をしました。

今回の講演者であるSarah Rowland-Jones教授には、来年度のHokkaidoサマー・インスティテュートにおいて授業を担当していただくことが決まり、来年度以降もオックスフォード大学と、より充実した交流・連携を行っていくことが期待されます。

（薬学研究院・薬学部）



総長表敬訪問

## 文部科学省高等教育局専門教育課企画係長らが工学研究院を訪問

1月16日（火）、文部科学省高等教育局専門教育課の西川尚斗企画係長、科学・技術教育係の野村 舞主任が工学研究院を訪れ、本研究院の特色のある施設を視察されました。

最初に、工学研究院長室で、増田隆夫工学研究院長・工学部長、小林幸徳工学院院长、大熊 毅総合化学院長の挨拶、本研究院の概要等の説明を受けた後、工学部3年次の授業を見学されました。その後、瞬間パルス状放射線発生装置研究室に移動し、電子線形加速器を視察し、古坂道弘特任教授から加速器室で中性子線が作られる過程や中性子線を利用した研究活動等の説明を受けました。

続いて、平成29年7月に竣工した土

木工学研究棟に移動し、杉山隆文教授の説明により、多用途・多目的利用を可能とする部屋割り等により教育研究環境の向上した実験設備や研究室を視察されました。

次に、超高压電子顕微鏡研究室では、全学共同利用施設のマルチビーム超高压電子顕微鏡を視察し、柴山環樹教授から、イオンビーム、レーザー光、電子等、世界で初めて複数の量子ビーム照射下において、原子レベルでその場での観察が可能である等の説明を受けました。

最後に、フロンティア応用科学研究棟に移動し、大熊総合化学院長から、本研究棟は、鈴木 章名誉教授がノーベル化学賞を受賞した功績を継承し、

後進を育成するための教育・研究拠点として、平成26年3月に竣工したこと等の説明を受けました。

視察後、工学研究院長室で行われた懇談では、増田工学研究院長・工学部長、小林工学院院长、宮永喜一情報科学研究科長・副工学部長、大熊総合化学院長、矢久保考介副工学研究院長・副工学院院长と、本学工学研究院、工学院、情報科学研究科、総合化学院、工学部での高等教育・研究活動の現状や財政状況等について活発に意見を交わされました。

（工学院・工学研究院・工学部）



加速器室で中性子線が作られる過程の説明をする古坂特任教授（右から2人目）



実験設備を説明する杉山教授（右）



パネルを使用して説明をする柴山教授（左から2人目）



フロンティア応用科学研究棟の説明をする大熊総合化学院長（右）



意見交換の様子

# 工学研究院で「大学の世界展開力強化事業（インド）」のキックオフイベントを開催



第1回STSI国際運営委員会後の集合写真

工学研究院では、1月11日（木）・12日（金）に、インド工科大学（IIT）ハイデラバード校、ボンベイ校、マドラス校より8名の教職員をお迎えし、持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のための国際共同研究力育成（STSI）プログラムのキックオフイベントを開催しました。

本プログラムは、インドにおける輸送システムと社会インフラ構築に関わる種々の課題について、日印の人材が一つのチームとして問題解決に取り組む際、その成果を最大化できる能力を有する人材の育成を目指しています。なお、本プログラムは、平成29年度文部科学省補助金事業「大学の世界展開

力強化事業（インド）」に採択され、5年にわたり助成される予定です。

11日（木）には、工学研究院L200講義室にて第1回STSI国際運営委員会を開催し、参加者間で活発な意見交換が行われ、今後のさらなる協力体制を確認し合う場となりました。その後、IIT各校からの参加者は、名和豊春総長を表敬訪問しました。

12日（金）には、フロンティア応用科学研究棟セミナー室にて第1回STSIシンポジウム「日印共同で行う国際共同研究力育成プログラム～持続可能な輸送システムと社会インフラ構築のために～」を開催し、名和総長からの挨拶の後、小林幸徳工学院院长（本

プログラム事業推進責任者）による基調講演に続いて、松本高志工学研究院教授、Ch. スプラマニヤン教授（IITハイデラバード校）、K. V. クリシュナ・ラオ教授（同ボンベイ校）、アミット・クマール教授（同マドラス校）による研究紹介が行われました。本シンポジウムには、約45名が参加し、熱心な質疑応答が交わされるなど、日印による今後の共同事業への関心の高さを感じられるイベントとなりました。

同日午後からは、IIT 2拠点とテレビ会議システムにより、工学研究院L200講義室にてSTSI基礎科目の試行授業を実施しました。授業には、2～3月にかけて相互に派遣される本学及びIITの学生9名が参加し、お互いの大学、インフラに関する課題、日本とインドの言語・文化について学ぶなど、インターンシップに向けた素晴らしい準備の機会となりました。

2日間にわたるキックオフイベントは、関係者間の共通認識を醸成し、プログラムのさらなる発展に寄与する有意義なものとなりました。

（工学院・工学研究院・工学部）



第1回STSI国際運営委員会の様子



表敬訪問の様子



第1回STSIシンポジウムでの名和総長からの挨拶



会場の様子



STSI基礎科目試行授業の様子

## 農学院・農学研究院・農学部において「留学生新年会」を開催

第32回留学生主催の新年会が、1月5日（金）に農学部の大講堂で開催されました。5ヶ国（中国、韓国、インドネシア、タイ、バングラデシュ）総勢62名の留学生が準備に携わり、餃子、キムチチヂミ、ミーソップメダン（インドネシアの麺料理）、蒸し鶏、カレーなど、各国の名物料理をふるまいました。

中国人留学生は豚肉と鶏肉の2種類の水餃子を30人がかりで作り、出来立てを提供し、韓国のキムチチヂミには長い行列ができました。例年に比べ今回は参加人数が少なく、教職員・学生を含め約190名でしたが、留学生の作る料理は全てなくなるほど好評でした。

会の後半には、各国の留学生による余興が行われました。バングラデシュ人留学生によるギターの弾き語り、中国人留学生によるサンドアートと歌、インドネシア人留学生による歌とウクレレの演奏などが披露されました。歌

が始まると会場は大いに盛り上がり、サンドアートでは会場が静まり皆見入っていました。本イベントは毎年開催されており、参加者全員で各国の料理や余興を楽しみながら新年を祝うだ

けではなく、料理や余興、留学生との会話を通して、異国の文化を理解し、楽しむ場となっています。

（農学院・農学研究院・農学部）



インドネシア人留学生による歌とウクレレ演奏



中国からの留学生



韓国からの留学生



タイからの留学生

## 地球環境科学研究院・環境科学院でFD研修会を開催

地球環境科学研究院・環境科学院では、1月11日（木）に「ハラスメント予防FD研修会」を、環境科学院講義室において開催しました。本FD研修会は、ハラスメントの予防に資する啓発活動の一環として、前年度に引き続き開催したものです。

当日は、本研究院・学院の教職員43名が参加し、本学ハラスメント相談室の築田美抄ハラスメント専門相談員を

講師に、「ハラスメントを予防してハイクオリティな研究環境を！」と題して講演がありました。

最初に、本研究院ハラスメント予防推進員の谷本陽一教授から冒頭の挨拶があり、講演では、「ハラスメントとは」「ハラスメントの判断基準」及び「ハラスメントの被害者や加害者にならないために」などについて、報道記事や事例を交えて、大変わかりやすい

説明がありました。続いて、活発な質疑応答が交わされ、最後に、大原 雅 研究院長・学院長から講師へお礼が述べられ、充実した研修会となりました。

本研究院・本学院では、今後もハラスメント予防のため、様々な啓発活動に取り組んでいく予定です。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



講演を行う築田ハラスメント専門相談員



冒頭の挨拶を行う谷本教授



講師へお礼を述べる大原研究院長・学院長

## 経済学部で特別講演会を開催

経済学部では、金融庁総務企画局企業開示課課長補佐の高橋敦子氏による「コーポレートガバナンスと会計監査をめぐる最近の動向」と題する特別講演会を、1月16日（火）に人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において開催しました。

企業開示課は、企業内容等に係る開示制度及び公認会計士制度の企画・立案、企業会計の基準及び監査基準の設定が主たる所掌事務です。すなわち、株式上場企業が従わねばならない会計制度を所掌しており、普段学生が学ぶ会計、企業が実務で行っている財務諸表の作成などの制度づくりがその主たる仕事です。また、企業会計審議会を担当する部署でもあり、ここでは公認会計士が監査を行う際に従わねばならない監査基準も策定されています。

折しも現在、企業会計審議会監査部会では、監査基準を含む監査制度の改定に向けた議論が始まっており、高橋氏はその直接の担当者でもあります。この講演では、企業と家計との間の資

金の流れから説き起こされ、ここで最適な資金フローを実現するためにはコーポレートガバナンスが重要であること、その改革がどのように進められてきたかを主として制度の整備を中心に話されました。さらに、金融商品取引法の下での適切な企業情報開示、国際財務報告基準への対応、会計監査を巡る変化、そして今まさに議論が始まっている監査書の透明化プロジェクトと、現在の会計及び監査が抱える問題点を広範にわかりやすく紹介されました。

200名を超える聴衆の多くは、会計学を学び始めて日が浅い学部生でした



講演する高橋氏

が、実際に日本の会計制度を策定する立場にある方のお話で、平易に語られたこともあり、最後まで熱心に聴講していました。また、大学院生、一般の方々の方々の参加もあり、いずれも大変好評でした。

経済学部では、金融庁及び北海道財務局（財務省及び金融庁地方出先機関）との連携を密にしながら、学生にとって極めて有為な機会であるこのような講演会を、今後も開催していきたいと考えています。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



会場の様子

## Ambitiousリーダー育成プログラムが理系博士課程留学生を対象としたキャリアセミナーを開催

Ambitiousリーダー育成プログラム（ALP<sup>\*</sup>）は、人材育成本部I-HoP、理学部国際化支援室、生命科学院IGPとの共催により、12月12日（火）に博士課程に在籍する理系留学生を対象とした英語によるキャリアセミナーを開催しました。「博士号取得後のキャリアについて（Your Future Careers After Getting Your Ph.D.）」と題したこのセミナーでは、留学生の就職活動や就職後のキャリア事情について詳しい3名が講演を行いました。

冒頭に行われた石森浩一郎プログラムコーディネーターによる挨拶に続いて、飯田良親特任教授（人材育成本部I-HoP）により、博士課程留学生の就職活動に関する現状分析と実践的なアドバイスを含む講演が行われました。続いて、大手化学メーカー出身でALPの産学連携科目を担当する七澤

淳客員教授が、企業という組織の特性について俯瞰した上で、特に博士号取得者が企業入社後に求められる具体的な役割や専門性について、アカデミアに進んだ場合との比較を交えながら議論を行いました。最後に、本学大学院で博士号を取得し、現在は理学研究院で教育・研究に携わる高 敏助教が、アカデミック志望の後輩留学生に向けたアドバイスを自身の経験を交えながら行いました。

本セミナーには、予想を大幅に上回る40名（10カ国）の参加者が来場したため、配布資料等が足りなくなりましたが、終了後に実施したアンケートでは、知りたい情報や知らなかった情報をタイムリーに知ることができて、有益だったといった内容の意見が非常に多く出されました。また、講演の間には、ALP所属の留学生が企業見学会

やインターンシップ、産学連携科目などで学んだことを発表するミニ企画も行い、留学生同士で日本の企業に関する情報を共有する貴重な機会となりました。

<sup>\*</sup>文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラム。産業界や学術・研究機関など、様々な領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としている。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際的実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供。

（総合化学院）



講演を行う飯田特任教授



講演を行う七澤客員教授



講演を行う高助教

## ■お知らせ

# 過半数代表候補者の決定

札幌キャンパス事業場（病院を除く。）における過半数代表候補者は、以下のとおり決定しました。

（総務企画部人事課厚生労務室）

職種・系区分		過半数代表候補者		
教 員	文系	(教育学研究院)	浅川和幸	
	理系	理学研究院	(理学研究院)	神保秀一
		工学研究院・情報科学研究科	(工学研究院)	山形定
		上記以外の理系	(農学研究院)	東山寛
	医系	(医学研究院)	中澤祐一	
員	附置研究所・研究センター系	(スラブ・ユーラシア研究センター)	長縄宣博	
職員 (教員を除く)		(財務部)	浅野泰規	
		(北方生物圏フィールド科学センター)	佐藤浩幸	
		(総務企画部)	濱田貴之	
特任教員・契約・短時間勤務・嘱託職員		(医学研究院)	高橋悦子	
		(遺伝子病制御研究所)	山口桂	

## ■ 諸会議の開催状況

---

### 役員会（平成30年1月10日）

- 議案・「大規模災害発生時における北海道地区国立大学等間の連携・協力に関する協定」の締結について  
協議事項・中期計画の変更について  
報告事項・「きのとや奨学金」の創設について  
・平成30年度運営費交付金等（予定額）について
- 

### 経営協議会（平成30年1月12日）

- 議題・中期計画の変更について  
報告事項・指定国立大学法人について  
・平成30年度運営費交付金等（予定額）について  
・「増収」及び「経費削減」に係る進捗状況について  
その他・財務レポート2017について
- 

### 教育研究評議会（平成30年1月17日）

- 議題・中期計画の変更について  
・多様な財源による教員の雇用制度について  
報告事項・「きのとや奨学金」の創設について  
・寄附分野の更新について  
・平成30年度運営費交付金等（予定額）について  
・学生の懲戒について
- 

### 役員会（平成30年1月22日）

- 議案・中期計画の変更について  
・多様な財源による教員の雇用制度について  
・中国北京リエゾンオフィスの開設について  
・サステイナブルキャンパスマネジメント本部の設置について  
・平成29年度教育研究支援業務総長表彰について  
協議事項・名誉学位の授与について
- 

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

## ■ 学内規程

---

### 国立大学法人北海道大学ディスティングイッシュトプロフェッサー称号付与規程の一部を改正する規程

（平成30年2月1日海大達第7号）

ディスティングイッシュトプロフェッサーの称号付与の条件を明示することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学大学院医学研究院死亡時画像診断受託規程

（平成30年2月1日海大達第8号）

大学院医学研究院において、本学以外の医療機関から死亡時画像診断の受託を実施することに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

### 北海道大学環境健康科学研究教育センター規程の一部を改正する規程

（平成30年2月1日海大達第9号）

本年2月1日付けで、環境健康科学研究教育センターにおける副センター長の人数及び兼務教員の兼務の期間を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

---

## 表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
30.1.15	忠南大学校（韓国）Oh Deog-Seong 学長	両大学の交流に関する懇談
30.1.19	太平洋国立大学（ロシア）Sergei Ivanchenko 学長	大学の世界展開力強化事業（ロシア）に関する会議出席



忠南大学校（韓国）Oh Deog-Seong 学長（中央左）



太平洋国立大学（ロシア）Sergei Ivanchenko 学長（中央）

（国際部国際連携課）

## 人事

平成30年2月1日付発令

新職名（発令事項）	氏名	旧職名（現職名）
【教授】 大学院保健科学研究院教授 （転出） 新潟大学理事	矢野 理香	大学院保健科学研究院准教授
	川端 和重	大学院先端生命科学研究院教授

### 新任教授紹介

平成30年2月1日付



保健科学研究院教授に

やの りか  
矢野 理香 氏

保健科学部門基盤看護学

生年月日

昭和40年7月13日

最終学歴

聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了  
博士（看護学）（聖路加看護大学）

専門分野

基礎看護学

## 訃報

名誉教授 <sup>おおが</sup>大賀 <sup>あきら</sup>皓 氏  
(享年90歳)



名誉教授 大賀 皓先生が平成29年12月24日にご逝去されました。

先生は、昭和2年10月30日札幌に生まれ、同26年3月北海道大学農学部獣医学科を卒業後、同年4月に同大学農学部文部教官助手に採用され、同27年4月獣医学部助手、同29年4月講師、同31年4月助教授を経て、同38年12月教授に昇任されました。昭和56年には北海道大学評議員、同57年には獣医学部長になられ、平成3年3月31日に定

年退官されるまで、本学の運営にご尽力されました。

昭和29年創設の家畜薬理学講座の初代教授として、反芻獣の胃運動とそれに対する迷走神経の役割の解明に取り組み、ヒツジの第3胃運動を明らかにするとともに、胃運動を抑制する新しい神経伝達物質の存在を示されました。さらに他の動物でも実験し、平成2年に「各種動物の消化管運動とその神経支配に関する比較生理学的研究」に対して日本農学賞及び読売農学賞が授与されています。昭和37年にスウェーデン王立獣医大学留学の経験から、アイソトープ実験の重要性を認識され、日本の獣医学部で初の放射線学講座の開設にご尽力されました。さらに獣医毒性学の必要性を説かれ、毒性学講座の開設に多大な貢献をされ、獣医学部・獣医学研究科の発展に大きく寄与されました。北海道大学退官後、平成

3年4月から5年間、酪農学園大学獣医毒性学講座教授として教鞭をとられました。

学外では、農林水産省獣医師免許審議会委員、日本学術会議獣医学研究連絡委員会委員や北海道地方薬事審議会委員などとして学術の発展や行政に貢献されました。

後進の指導育成に深くご尽力され、門下生の中から大学教授ほか幅広い分野で活躍する人材を多数輩出されました。また山岳部OBとして後輩部員の活動を支援されました。平成18年11月には、長年の教育研究の業績により瑞宝中綬章を受章されました。

ここに生前のご功績をたたえ、心より哀悼の意を表します。

(獣医学院・獣医学研究院・獣医学部)

## 編集メモ

---

●インフォメーションセンター「エルムの森」の、冬季間は閉鎖しているウッドデッキのスペースに、かわいらしい雪像が登場しました。カフェスペースから見える留学生スタッフの力作は、多くの方が写真を撮るなど、喜んでいただけたようです。





2017.2.5 釧網本線 塘路～細岡（釧路町）

## 北の鉄道風景 59 霧氷の朝

厳寒の朝を迎えた釧路湿原。そこを流れる釧路川に沿って川霧が立ち上り、湿原の木々には霧氷の花が咲く。このような光景は、厳冬期の釧路湿原では毎朝見られるように思われるが、実際はそうではない。霧氷という現象の発生には湿度が大きく関係していて、冷え込みが厳しいものの湿度が低い朝は、霧氷はできない。冷え込みに加えて、高湿度と更に

無風といった条件が揃わなければ霧氷は見られないのだ。写真は釧網本線の細岡駅に程近い丘の上から観た早朝の釧路湿原である。氷点下25度の冷え込みの中、朝焼けに染まる雄阿寒岳を背景に、摩周発釧路行き始発列車が霧氷の花道を往く。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ② No.767 平成30年2月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html